

(DH-2)

履 歴 書 (記入例)

顔写真
(カラー)
2.5×3 cm

ふりがな 氏名		男 ・ 女	生年 月日	年 月 日生
	(自筆)			

本籍	東京都新宿区東新宿
----	-----------

ふりがな 現住所	
	〒 東京都新宿区東新宿 2 - 5 - 6

学 歴

年	月	
2010	3	短期大学・ 歯科衛生士専門学校 歯科衛生士科卒業 歯科衛生士登録 (第 号)

職 歴

年	月	
2005	4	東京都歯科医院
2010	4	新宿歯科大学インプラント科
		現在に至る

学会及び社会における活動

年	月	
2008	7	(社)日本歯科衛生士会会員
2009	1	(社)日本先進インプラント医療学会会員
2010	4	学会会員

賞 罰

年	月	
		なし

上記の通り相違ありません。

年 月 日

氏名

印

(DH-6)

症例報告書 1 (記載例)

症例 1	患者名	日本 太郎	1957 年 6 月生	男・女	50 才
インプラント埋入部位	左側下顎 6・7 番部			欠損 形態	中間歯・遊離端 無歯顎・その他
初診	西暦	2000 年 11 月 22 日	介助の有無	有・無	
インプラント埋入手術	西暦	2002 年 6 月 4 日	介助の有無	有・無	
最終補綴	西暦	2002 年 10 月 24 日	介助の有無	有・無	
メンテナンス移行日	西暦	2002 年 10 月 24 日	担当の有無	有・無	
最終メンテナンス	西暦	2011 年 9 月 25 日	担当の有無	有・無	
主訴	・ 歯肉からの出血 ・ 歯がなくてかめない ・ 見た目が悪い				
症例の概要	歯肉出血と左側下顎臼歯部の欠損治療を主訴に来院した。歯周病が中等度に進行しており歯周基本治療を先行させた。歯周ポケットやプラークコントロールの改善後、左側下顎臼歯部に 2 本インプラント体の埋入手術を行い、術後約 3 ヶ月後に二次手術、その後 1 ヶ月目に最終補綴物を装着した。3 ヶ月毎のメンテナンスを行い、現在最終補綴物装着後 5 年を経過し良好である。				
治療に携わった 内容 検査 指導 介助 メンテナンス 口腔内管理 等について	初診時からメンテナンスまで担当した。インプラント体埋入手術に先行した歯周基本治療は浸潤麻酔下での SRP を中心に行い深い歯周ポケットの除去と徹底したプラークコントロールを行った。初診時の PCR46.7%，再評価時には 8.7%まで改善しブラッシングが定着したと判断した。約 1 年間かけ歯周病治療を行い、2001 年 10 月 23 日に終了した。 インプラント治療移行に際し治療後も歯周病を含めた口腔管理の必要性を説明し同意を得た。2002 年 6 月 3 日手術前のスケーリングと口腔内清掃、手術に際しての注意事項を説明した。2002 年 6 月 4 日左側下顎臼歯部のインプラント埋入手術の介助を行った。 手術室の準備から器具の滅菌消毒までを行い、第一助手と治療後の口腔内管理を担当した。 2002 年 10 月 24 日最終補綴後のブラッシング指導を行い、歯周病の管理の含めた 3 ヶ月毎のメンテナンスに移行した。				
考察	この症例を通し歯周病が中等度に進行していても歯周病治療を行い口腔内環境を整えば、インプラント治療が可能になる事がわかった。また歯周病治療を通じて患者との十分なコミュニケーションと信頼関係が出来た事により比較的スムーズにインプラント治療やメンテナンスに移行できた。今後も咬合の変化に注目すると共に歯周病を含めたメンテナンスを継続し口腔内環境を整えて行くことがインプラントを長期保存していくために必要不可欠であると考える。				

フォントは MS 明朝，11 ポイントでパソコン入力して下さい。1,000 字以内に収めて下さい。
性別・欠損形態・介助担当の有無の選択箇所は下線を引いて下さい。